

心理療法各論 ～2017

科目コード **FF3521**



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R	2年以上	渡部 純夫

履修方法：R レポート提出後、科目修了試験の申込み・受験を忘れずに行ってください。

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2023年3月まで可能です（新規履修登録はできません）。

※2022年度は、担当教員が変更になります。教科書、レポート課題に変更はありません。

科目の概要

■科目の内容

心理療法を行なうにあたって、理論は羅針盤の役割を果たしてくれます。援助に迷ったり、状況理解がかなわなくなった時には、一度援助の過程を理論と突き合わせてみることで、問題点が明らかになったり、方向性の確認がなされたりすることで、再び援助が動き出すこととなります。そのためにも理論の習得が必要となります。

また、心理療法の対象は人間です、一人一人が違いをもって、個としての存在を作り上げています。一つの理論がすべての人に当てはまるわけではありません。それぞれの人の違いに応じた援助が求められることとなります。つまり、少なくともいくつかの理論を習得しておく必要があるということです。

ここでは、「個人分析療法」をはじめ「特定因子理論」「認知行動療法」「交流分析」「ゲシュタルト療法」「人間学的アプローチ」「家族療法」などの両方を学んでいただくこととなります。いろいろな理論や技法に触れることで、ご自分の援助の幅を広げていただきたいと思います。

■到達目標

- 1) 心理療法の理論（「個人分析療法」「特定因子理論」「認知行動療法」「交流分析」「ゲシュタルト療法」「人間学的アプローチ」「家族療法」「その他」）について解説することができる。
- 2) 心理療法の理論について具体的臨床例を整理して提供することができる。
- 3) 産業カウンセラーとしての立場から、理論の活用について説明することができる。

■教科書

日本産業カウンセラー協会編「産業カウンセリング（産業カウンセラー養成講座テキスト）」日本産業カウンセラー協会、2013年 第5章「カウンセリングの諸理論」

■履修登録条件

この科目は「カウンセリングⅠ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

「心理療法」「臨床心理学」の単位修得後、学修することが望ましいものです。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、「総合的人間理解力」「心理学の学びを活かした社会貢献力」を自分のものにする。

■科目評価基準

レポート評価50%+科目修了試験50%

■参考図書

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『改訂版 現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版、2019年

小俣和義編著『増補版 こころのケアの基本』北樹出版、2020年

レポート学習

■在宅学習8のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	カウンセリング理論の歴史的位置づけ (第5章5-1)	5系統のカウンセリング理論についての歴史的位置づけについて学ぶ。	カウンセリング理論は、指示的なものから人間学的なものまでおよそ5系統に分類されます。これらの理論について、歴史的流れをたどりながら、カウンセリングの理論の全体像にせまりましょう。
2	特性因子理論—カウンセリングの夜明け (第5章5-2)	カウンセリングが20世紀初頭の職業指導運動に始まる事を理解する。	人間のパーソナリティはいくつかの特性因子のくみあわせで構成されていると考えられます。ここでは、特性因子理論を用いた、職業適性や職業指導という観点からカウンセリングを考えてみましょう。
3	認知行動療法① (第5章5-3-1~5)	行動療法の基礎である学習理論(古典的条件づけとオペラント条件づけ)と社会的学習理論について理解する。	行動療法の基礎となっている、学習理論における古典的条件づけとオペラント条件づけの理論と活用法方について理解を深めていきます。
4	認知行動療法② (第5章5-3-6~8)	論理療法と認知療法を学ぶことにより、今日の認知行動療法がどのように構築されてきたかについて理解する。	事象の受け止め方で、行動がどのように変化するかについて、認知行動療法の理論並びに技法について理解を深めていくことにします。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	交流分析・ゲシュタルト療法 (第5章5-4-2~3)	交流分析・ゲシュタルト療法について理解を深める。	交流分析の方法とゲシュタルト療法の技法について、自分の経験をもとに考えていくことにします。
6	人間学的アプローチ (第5章5-5)	実存主義的カウンセリングや実存分析(ロゴセラピー)について理解を深める。	ロジャースの来談者中心療法や実存分析(ロゴセラピー)について、身体感覚を通して感じることやイメージの展開など、自分の体験に根差した感覚を味わうことに心がけてみてください。
7	家族療法 (第5章5-6)	家族療法、短期療法、物語療法などについての理解を深める。	個人療法と家族システムを活用する家族療法などの違いについて考えてみてください。
8	その他のカウンセリング理論 (第5章5-7)	現実療法、森田療法、内観療法について理解を深める。	日本独自の療法である、森田療法、内観療法について味わいながら外国で作られた療法との違いについて深く考えてみてください。

■レポート課題

履修登録時に配付された専用レポート用紙に記載の問題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書以外の参考文献にもあたり、各心理療法の違いが明確になるよう学修を行うことで、理解力がアップし、技法として活用するとき切れ味がよくなると思われます。また自己理解が進むと考えられます。

科目修了試験

■評価基準

内容を正しく理解していること。具体例を求められている問題では、具体例と全般的な説明が明確に記述されていることが評価されます。